

## 「障がい者に対して」

3年 R.A

私は、この夏休みに「グッド・ドクター」というドラマを見ていました。そのドラマは自閉症の医師が主人公で、主人公は、小さい頃兄をなくして、それがきっかけで、すべての子供たちを大人にしてあげたかったからと小児外科医になりました。

しかし、自閉症ということで、他の医師たちからは、うとまれていたり、どう接すればいいのか分からないと思われていました。

その後、医学に関する知識が豊富だったことや、子供たちを救いたいという強い気持ちにふれた他の医師たちから信頼されるようになっていくというドラマです。

そのドラマを見て、私は、障がいについて考えてみようと思いました。

まず最初に、小学校の時にいた障がいをもつ女の子を思い返してみました。その女の子は、障がいをもっているにも関わらず、いつも優しく、明るく元気な子でした。私はその女の子と一緒にクラスになることが多かったため、他の子たちよりは関わる機会が多く、学年での発表会のときに一緒に楽器を演奏したりしていました。その女の子は名前を覚えるのが苦手だったのに私の名前を覚えてくれて私はとても嬉しかったのを覚えています。

当時の私は、障がい者の方といっても普通の子と少し違っているけど特に何も思っていないでした。

中学校に入ったあと、通学中に電車の中で一人で何かをぶつぶつとつぶやいている障がい者の方と何度か一緒になることがあったのですが、その人がぶつぶつつぶやきながら近づいてきたとき私は怖くなって少し後ずさりしてしまいました。この人の場合は、小学校の女の子と違い知らない人だったからこのような態度をとってしまったのだと思いました。

そのように考える人はたくさんいるようで私はあるニュース記事を見つけました。そのニュースとは、うろうろする、大きな声を出す、といった、障がいの影響で現れるさまざまな行動をイラストで紹介して、これらの行動を目にしても奇妙に思うのではなく、「あたたかく見守ってほしい」と訴えた

ポスターが SNS 上で話題になっている、というものです。このニュースに「障がいのある人はその特性から他の人に理解されにくい行動を取る」という言葉があるということは、やっぱり障がい者の方の行動は理解されにくいようです。しかし、ポスターなどを使って、障がい者のことを知ることによって、障がい者に対して嫌な態度をとることがなくなるという効果があるのだなと思いました。

私自身、恐怖を感じていましたが、このポスターをみて、怖がる必要はないのだと思いました。

「無知の知」という言葉があります。この言葉は、古代ギリシャの哲学者であるソクラテスの言葉です。意味は、「無知であるということを知っているという時点で、相手より優れていると考えること。また同時に真の知への探求は、まず自分が無知であることを知ることから始まるということ」です。

私は、障がい者についてよく知らない人が多いと思います。

私は今まで述べてきたようなことを経験し、障がい者の方について知ることは、障がい者の方に対しての偏見を減らしていくことにつながっていくのではないかと思いました。偏見を減らし、障がい者の方が生活しやすい社会になればいいなと思いました。